

山越脩蔵宛て高倉輝書簡

山野 晴雄

ここで紹介するのは、タカクラ・テル（高倉輝）が山越脩蔵に宛てて書き送った手紙・葉書 24 点である。山越脩蔵氏が保存されていたもので、現在は長野大学が所蔵されている。

タカクラが上田自由大学と関わったところから、長野県星野温泉への移住、長女信の出産、自由大学雑誌発行のころまでの状況などを知ることができる。

①以外の書簡は、山野「若き日のタカクラ・テレー作家への道―」（桜華女学院高等学校『研究紀要』第 4 号、2008 年）で引用されたほかは、これまでほとんど利用されてこなかったもので、紹介することとした。

① 1921 年 9 月 13 日

長野県上田市横町 信濃自由大学発起者御中
近江石山柳家別荘 高倉輝

土田君と同道で石ノ巻の方へ参って居りまして只今帰りました 御手紙拝見いたしました 御引きうけは致しましたものの私の話は他の哲学や社界問題の話のやうに御参考になるまいと存じまして大変気にかかつて居る次第です 殊に仮りに「文学論」と題はつけましたものの実は只今私が創作しようと志してる心持を偽らずに申し上げて見ようと思ひますので決して学術的に組織の立った話しではありませんのです 只だ此の心持をまとめるだけは骨を折ってまとめたつもりでありますどうか前以てその点を御含みを願ひ度いと存じます 只今私は非常に頭の中で苦しんで居りますのでその苦しみだけに何かの御参考に成るかと言ふやうな気持ちがするだけで有ります とり敢ず右のみ申し上げますた

高倉輝

金井 正様
山越修造様
猪坂直一様

② (1921) 年 (12) 月 29 日

長野県小県郡神川村国分 山越脩造様

一昨日帰り着きました。京都で土田に逢いまして大いに話しに花が咲きました。御病気も好く成りましたか。私も東京であれからとふとふ三日ほど熱を出して寝て了ひました。信州から帰ると又特別に温口です。が寒い信州で大いに土田と二人で恋しがった事でした。一月の講義は都合がつきましたら

私は京都に居ないので その方のお力に成れぬのを遺憾に存じます。

金井猪阪両君へどうかよろしく御伝へ下さいまし。四月アルスが出る頃には多分参れるだらうと楽しみにして居ります。何れまた迹から

廿九日

輝

山越脩造様

③ 1922 年 2 月 11 日

消印 大正 11 年 2 月 11 日

長野県小県郡神川村国分 山越脩造様
高知県幡多郡七郷村 高倉輝

先日は電報を今日はお手紙を有難う存じました 小生も信州へ参り度くて溜まりません 自由大学の

会員諸君にもお目にかかり度くて溜まらぬ気がします 実は恒藤君の真似をして幾度も手紙を書きかけたので有りますが 何うも白白い気がしましてやめて了ひました どうか宜しくお礼を申し上げて下さい 三月には有楽座で小生の孔雀城をやりますさうで それに参りますから どうかその時は是非一つ僕の為に講演会を開いて下さい 実は講演は申しわけで会員諸君と逢って一緒に話しがし度いと思ふので有ります

私も今年はいよいよイワンの馬鹿の生活を徹底させようと思って居ります 是非農民美術の御厄介に成り度いと存じます

どうかその他の諸君へ宜しくお伝へ下さい

十一日

輝

山越様

④ 1922 年 2 月 26 日

消印 大正 11 年 2 月 27 日

長野県小県郡神川村国分 山越脩造様

高知県幡多郡七郷村 高倉輝

御端書有り難う存じました 土田の病気の事少しも直らなかったのですから愕きました 小生は上京を中止しました 今の作品を全然失敗したからです これから全く初めからやり更へる所です 健康は全然こわしてるし全くの死に者狂ひです これが出来上るまでは一寸も動けません 従って御地行きも出来ません 非常に残念です どうか皆さんに宜しくお伝へ下さい 御返事だけ

二十六日

輝

山越脩造様

⑤ 1922 年 (2) 月 26 日

長野県小県郡神川村国分 山越脩造様

高知県幡多郡七郷村 高倉輝

いよいよ御結婚された趣何よりおめで度う存じます 謹んでお慶びを申し上げます 御令閨にもどうか宜しくお伝へ下さい

私もあれから随分苦しみました 頭も健康もめっちゃめっちゃにして一時は何うなる事かと存じましたが 漸く力を回復して参りました 多分今度こそは出来上で有りませう もし今の作品が出来上りましたら 事によると暫く信州へ行かうかと考へて居ります □ちらではやはり親戚なんか面倒□すから暫くそちらで次の作にかからうかとも考へて居ります 甚だ恐入りますが もしお序も有りましたら 例の星野温泉の別荘だかの家一軒都合がつかますまいかお聞き合はせ下さいますまいか 山本さんと一度参って山本さんからその話しが出ましたから 或は記憶して居られるかも知れませんがその節約そ幾らほどか値段もお聞き下さいましたら有り難う存じます 恐れ入りますがお序の節が有ったら願いたします

三月の講義は誰に来了ましたか 猪阪金井の諸君にお会ひの節どうか宜しくお伝へ下さい

二十六日

輝拝

山越脩造様

こちらは今梅の盛りです 土田は手術をして弱って居る様です

⑥ 1922 年 4 月 19 日

消印 大正 11 年 4 月 19 日

長野県小県郡神川村国分 山越脩蔵様
高知県幡多郡七郷村 高倉輝

御手紙有り難う存じました

種々御配慮を煩はし有り難う存じました 厚く御礼申し上げます 漸く為事も目鼻がついて来ましたので思はず一息つきました 併し本当はこれからまた実に苦しいのです 併し何れ近日拝眉の機を得る事が出来るで有らうと楽しみにいたして居ります 取り急ぎ御礼のみ申あげました 草々

十九日

高倉輝

山越修造様

⑦ 1922 年 () 月 26 日

長野県小県郡神川村字国分 山越脩造様

御手紙有り難う存じました 御急用中に種御手数ばかりかけて何とも申わけ次第□□りません 深く御礼を申し上げます

所で折角御尽力を願ひましたのに私は只今病気で倒れて居ります 昨年からかかって居りましたが作品を先日全部放擲して了ひました 丁度七百枚ほど原稿を書き棄てましたので 私としては可なりの打撃でした それがやはりからだを悪くしたものと見えましてどっと床について了ひましたのです

殆どからだ全体を悪くしまして胸脳、神経心臓、視力、胃、腸とこれだけ悪いのですからやり切れません 全快次第出発そちらで為事し度いと思ひますが 右のわけで今ちょっといつ立てるか分かりませんのです どうか悪しからず向うへお答へ下さいまして家は借手が有りましたらどうかお借し下さる様留計ひ願ひ度う存じます 私が参りました節に丁度明いて居る様でしたら事節また拝借いたします 猶、御配慮を煩はした御礼を申述べます

こちらでも養蚕で大分忙しい様です 私の村にも小さい養蚕所が一つ有りますのでやって居る様子です

とに角私には今迷はずに働ける人が最も羨しく感じられます 只今の私の如きは肉体の病氣とあたまの病ひ両方からて責め抜かれ全くどん底に落ちて居ります

取り急ぎ御礼のみ申し上げます

二十六日

高倉輝

山越脩造様

⑧ 1922 年 () 月 5 日

先日は御手紙有難存じました 毎度でナンとも恐入りますがまた御願が出来ました

私は此月末に駆落的結婚をやります 同時に 今までやってもやっても失敗した昨年来の作品を最後の努力でやっつけて了ふ積りです で十月の初めから十一月末頃まで此前御手数をかけた例の星野温泉で(此处が都合が悪ければどこか他の信州地でやろうと思ひます)送り度いと思ひます で別書の通り星野温泉へ手紙を書きましたが宛名を存じません 御面倒ですが書入て投函して頂けないかと思ふのであります 甚だ御多用中申上兼ますが御願申上ます

右のわけで唯今大変貧乏で有りますが漸く旅費と二人が二月ほど暮らすだけ工面を致しました 御厄介が向うへかかる気遣は無い積りです 何しろ将来は学海という信州へ移住し度いと思つて居ります 至急右御願のみ申上ました

五日

高倉輝

山越修造様

(中へも宛名を書いてください)

⑨ 1922 年 10 月 15 日

消印 大正 11 年 10 月 15 日
小県郡神川村字国分 山越修造様
星の温泉 高倉輝

やっと今日参りました。都合で一人参りました。ロシアの農民の作りましたものを二三個持って参りましたが 山本さんが留守で残念でした。何れ近日御面快の節お眼にかけます。取り急ぎ右御通知のみ。直ぐ明日から為事にかかる積りです。

⑩ 1922 年 (11) 月 18 日

御端書有難存じました

御病気の由何よりも御静養の上一日も早御全快のほど禱り上げます

さて小生昨年来失敗に失敗を重ねて居りました作品漸く月に角月内ぐらゐで全部の浄書を了る事になりました。でとに角来月上田自由大学の方へ出る約束をさせて頂く事が出来ると思ひます。完成の上又これまで通り葬る様な心持になれば格別ですが さうで無ければ作品を持って上京 二三日中に帰る積りですから 一日二日の違ひは有りまして 多分十二月五日頃から四五日間やらして頂く積りで居ります。題目は此の前の文学論の続きでそれから列伝へ入る積りです

唯今此の地方へ移住し度い希望に燃えて居ります。もし今度の作品を世の中へ出す心持になれる様でしたら 全力を挙げて此の附近へ家を造る計画をする積りです

皆様にどうか宜しく御言伝を申上げて下さい

十八日

高倉輝

山越修造様

今夜から大阪で孔雀城をやつて居ます

⑪ 1922 年 12 月 13 日

消印 大正 11 年 12 月 13 日
小県郡神川村国分 山越脩造様
沓掛星野 高倉輝

種々御厄介をかけました。昨朝田子さんはかえられてまた一人になって了ひました。数日人の間に戻ったので。今度はこれまでに分らない淋しさを生じて居ります

御健康いかがですか。何にしてもこの際勇気を出してすっかり一度に健康になって了はれる事を望みます。で無口といつまでもぢりぢりして本気に勉強が出来ますまい。いろいろ事情もお有りでせう

けれども一つうんと勇気を出してやって下さい

金井猪阪両氏によろしくお伝へ下さい

星野はやはり寒いやうです。いづれ近日御面快の機が有らうと思ひますから。何事もその節

十三日朝

高倉輝

山越脩造様

⑫年月日不詳

小県郡神川村字国分 山越修造様
沓掛星野 高倉輝

山越修造様

杉村君が参りまして 布団がほしいのですが 御都合は如何でしやうか

⑬ 1923 年 9 月 5 日

消印 大正 12 年 9 月 5 日

小県郡神川村字国分 山越修造様
沓掛 高倉輝

なす難有存じました 丁度こちらは野菜ふっとい大いに助かりました 大変な騒ぎですが そちらでは変り有りませんか 別所の方はいかがでしたかしら どさくさまぎれに妻少し悪くなって弱りました 良く上田の病院へ入りたいと思ってをりますがもし田子さんに御面快の節も有らば上田の病院など入院出来るかお伺下さいませんか とりいそぎ御礼だけ 小生など突然東京米びつ潰れて大混乱中 とりいそぎ 不一

⑭ 1923 年 9 月 8 日

小県郡神川村字国分 山越修造様
沓掛 高倉輝

唯今は電報難有存じました いろいろ御厄介のみ於かけ何とも申わけ次第有りません 厚く御礼申上ます 折角でしたが 丁度妻がマラリアの病気で四十度近く発熱中でしたので 汽車にのりかたく 今少しのばす事にいたしました 出産はまだ大丈夫ですから いま少し加減を見てお願いいたします あしからず御了承下さいまし いづれ迹より詳しく 取り急ぎ御願のみ

九月八日

高倉輝

山越修造様

⑮ 1923 年 9 月 8 日

消印 大正 12 年 9 月 9 日

小県郡神川村字国分 山越修造様 御妻様
沓掛 高倉輝

御手紙難有存じました。いろいろ御厄介相なり何とも御礼の申上様も有りません。御宅は御縁故の方が東京におありでしたか。何しろ大変な口口で驚いて了ひました。当地も避難民に大雑沓を極めてをります。とりいそぎ御礼だけ申上げました。いづれ御面快の節に御礼申し上げます。

九月八日

⑯ 1924 年 7 月 21 日

小県郡神川村字国分 山越修造様
別所 高倉輝

御来光をお待ちします

Veifinger, die philosoph der Ala ab.

万一いつぞやの独乙書の中にありましたらその節ちょっと拝借出来ませんか 何事も拝眉万万
二十一日

ロダ 杏村
イネ藤 恭
アマロ正太郎
泡喰ッタ 輝
ビデエ 隆
可ナリタラス
ヤマコシ修造
イカサマ直一
蛸 正太郎
サツマ芋七五郎
オドロキ直泰
見アキタ智三郎
カスメタ銚吉郎

⑰ 1924 年 9 月 19 日

消印 大正 13 年 9 月 20 日
神川村国分 山越脩造様
別所 高倉輝

御手紙難有存じました

御旅行忙しい事でせう 併しこの秋空の行商と言ものは何と無く興味が有って大分羨しい感じがしま
す 明日あたり本が出るかと存じます 次に拝眉の節御笑覧に供へます 自由大学の講師大分旨く行
きさうで何よりに存じます 何しろ今年は一つうんと馬力をかけてやりませう 今長篇の浄書に忙殺
されてをりますが 今度のは大分旨く深く這入ったつもりです いづれ近日御面怪 万万 とりいさ
ぎ 伊藤様 田子様へよろしく

十九日

輝

山越様

⑱ 1925 年 1 月 20 日

消印 大正 14 年 1 月 20 日
神川村国分 山越脩造様
別所 高倉輝

どうもやはり弱くていけません いよいよ明後日で総てがが決すると言ふ 昨夜突然母が熱を出して
倒れ□□ひました 何にも申しませんが 四月に帰って先祖のお祭りをしなくてはいけないのに そ
の家が無くなるのが御先祖に申訳が無いと一言申しました それから家内中黙って寝ずに涙して了ひ
ました そこで先日お湯の中で逢った大兄に最後のお願いをして見ないのは私としては在らゆる手段
を尽くさない気がし□奈にも母に不忠実な気がしますので とうとうこの手紙を書く事に致しました
何とぞらゆる失礼お許し下さい

四月になるとアルスで金の都合がつくのなさうです 万一大兄の手で二十二日中か二十三日の朝まで
に幾らでもお金の都合がつくやうでしたら田子□まで拝借さして下さいまし 幾らでも入れて置けば
多分大丈夫だと母も申しました 甚だ申上兼ますが明日（廿一日）にでも御都合だけ電報でも御通

知下さいませんか 何とぞ御願申上ます さすがに口日は浄書の筆が執れずつくづく意気地が無いと存じます

二十日

輝

山越兄

大兄を煩はす失礼唯唯御海容を禱ります

①⑨ 1925 年 1 月 22 日

消印 大正 14 年 1 月 22 日

神川村国分 山越脩造様

別所 高倉輝

御心配をかけました件今日偶然蚕糸社で佐藤さんから一時かりる事が出来る事になりました 何とぞ御安心下さいまし いろいろ御配慮を煩はし何とも申わけ有りませんで口た取り急ぎ

二十二日

高倉

山越様

②⑩ 1925 年 1 月 22 日

消印 1925 年 1 月 22 日

神川村国分 山越脩造兄

別所 高倉輝

いろいろ御心配をかけました 蚕糸社の佐藤さんが千三百円借して下さいましたので 丁度四五百円に私の洋服妻の衣類一切京都の質屋へ送っておりますので此の方で迹四百円余りには足りなくともどうかか拝み倒せさうな位は送って来るだらうと存じます

御配慮を煩はし難有存じました いつもいつもで全く御礼の申上様も有りません 厚く御礼申上ます 漸く母も少し安心しました

自由大学雑誌評判がよくて何よりでした 二号はぐっと好いものにしたいと思つてます

必ず御執筆願ひます 将来経営の方は猪坂兄に任せるとして自由大学その他の根本の方針に就ては主としてあなたにやって頂きたいものです 何とぞよろしく御願申上げます二日徹夜にて床に切つてをりますので今日はお願いだけ

二十二日

輝

山越兄

②⑪ 1925 年 3 月 22 日

消印 大正 14 年 3 月 22 日

神川村国分 山越修造様

別所 高倉輝

興津園芸試験場内

ハマダセン

先日は失礼 濱田を呼びよせようと思ひますが 同封の次第でアルスから一月以来来る金が来ず どうにもならないで絶対絶命呼ぶのに旅費が出せないで弱ってをります 申しかねますが 万一御都合がつかましたら拝借下され至急五六十円（電送）送ってやって下さいませんか 何とも恐入りますが 御相談申し上げます 万一御都合がつくやうでしたら小生の名にて濱田あてと一緒に「ベッショヘ ヨツテク」と電報を打って下さいませんか 右とりいそぎ大あわて御相談□□ 高□ 二十二日

（別紙）アルスからの手紙

拝啓

「阪」上巻一気に読みつゞけ只今読了、すっかり魅了されてしまいました。たしかに素晴らしい作品です。単に興味といふ点から見ても実に すてきだと思ひます。厨川氏はよく知ってゐるだけに一番性格が躍如としております。猿の一件は如何にもあの人らしく思はず吹き出してしまいました。ほかの教授たちやモデルの本名が判れば尚一層面白いと思ひますが、おさしつかへのない処だけお知らせ下さいませんか。

下巻が待ち遠しくなりました。とにかくすぐに増刷いたします。早く出したいものです。送金がおくれて申し訳ございません。ご都合がおわるいと思ひますが、今少しお待ち下さいませんか。ここ少しの処を切りぬけるとあとは楽です。今が峠です。

子規全集はやっと十七八日頃出来ます。これには実に忙がされました。

美術講座成功疑ひなしです。

中條君は実によくやってくれます。非常に忙しいのですっかり面くらってゐる様です。実に信頼のできる人で、よい人を紹介して頂いたと悦こんでおります。

取急ぎ 不一

十二日

豫生

輝大兄

㊹ 1925 年 3 月 25 日

消印 大正 14 年 3 月 25 日

神川村国分 山越脩造様

別所 高倉輝

御無理をお願いした所早速御承引下さいまして全く助りました 厚く御礼申し上げます 濱田多分来る事と存じます 来ましたら早速御通を申し上げます いよいよ又長篇の後篇浄書にかかりました 波多野君もすっかり別所が気に入り夏来たいと言ってをります いづれ近日拝眉の□

二十五日

輝

山越兄

㊺ 1925 年 3 月 26 日

神川村国分 山越脩造様

別所 高倉輝

同封の電報昨夜参りました 濱田もさぞ喜んだ事と存じます お陰で安心いたしました 多分今朝来る事と存じます 明日にでもお出かけ下さいませんか 幾らでも利用してやって下さいませんか 都合で現場を一度一緒に見に行っても好いと存じます

二十六日

輝

山越兄

(別紙) 電報

受信人居所氏名 ベッシヨ タカクラテル

カネウケトッタアスキチヘンク

㊤ (1928) 年 12 月 7 日

久に御無沙汰仕りました お口るもございませんか さて御申越下さいました件 実は昨年来より何とかして御恩借もお返し何かの方法でお力になりたいと存じまして アルスの児童文庫と近代劇全集の二つ引き受けました 先頃やっと為上げましたところ アルスは丁度御存じの有様で何ともならなくなりました 一昨日第一書房へ訪ねましたが この方もどうしても稿料を払って呉れないで弱ってゐる始末です 何とかしまして これが這入り次第少しなりとお送り申しますから 受書の方は保存を願ひたう存じます ログス書院の方で全部私が面倒を見てをりますから この方さへ順に運べば将来幾らでもお力になれると存じます 右の事情御了承の上暫くお待ち下さいませんか 丁度校正に追はれ抜いてをりますので とりいそぎ御返事申上げました

十二月七日

輝

山越兄